

三輪宗弘著

## 『太平洋戦争と石油』

戦略物資の軍事と経済』

橋川武郎

本書の課題は、①軍事戦略物資の石油を軸に太平洋戦争の開戦経過を明らかにする、②戦時下での石油の採掘・精製・輸送の実態を解明する、③敗戦直後の石油関連軍需工場の民需転換のプロセスを検討する、という二点にある。構成は以下のとおりであり、第一部で①、第一部の第五章で②、第六・七章で③の課題に取り組んでいる。

序 章 問題の所在

第一部 開戦

第一章 対英米蘭開戦と人造石油

第二章 資産凍結前の米国の対日強硬

論と石油禁輸後の海軍の対米

### 強硬論

## 第三章 資産凍結後の石油決済資金をめぐる日米交渉

## 第四章 ハル・ノートと暫定協定案

## 第二部 戦争・敗戦

## 第五章 戦時海軍の石油補給

## 第六章 軍需から民需への転換

## 第七章 米国の初期対日占領政策

## 第三部 補論

## 第八章 三井物産と米国石油会社ソコ

## 第九章 E・H・カーの国際政治観の再検討

### 再検討

## 第十章 日独伊三国同盟

## 終章 おわりに

## あとがき

## 初出一覧

## 索引

開戦経過を検討した本書第一部の第一章では、商工省燃料局資料などにもとづき、開戦前夜の日本国内における「開戦」論と「臥薪嘗胆」論との対抗が描かれ、特殊鋼のポトルネック化などによって人造石油増産に依拠する「臥薪嘗胆」論が力を失ってゆく様子が示されている。第一～四章では、

在米一次資料などにより、日米政府関係者がそれぞれ一枚岩的であり、事前予測能力をもっていたとする通説に対する批判が繰り広げられる。そこで光が当てられるのは、F・D・ローズベルト大統領、C・ハル国務長官、H・R・スターク海軍作戦部長らの米国内の対日宥和派の存在（第二章）、石油代金決済資金をめぐる交渉の行詰りが石油を含む日米間貿易の全面停止を現実化したプロセス（第三章）、ハルが米英政府間の齟齬を認識していなかったがゆえに対日強硬論に屈してゆく経緯（第四章）、などである。

戦時中の状況に目を向けた第二章第五章では、防衛研究所戦史部図書館所蔵資料などにもとづき、戦時下の石油補給が検討されている。石油補給の断絶が敗戦の一要因となったという結論には目新しさがないが、補給が順調だった時期に海軍の重油需要が想定を上回った、南方の石油生産をめぐっても陸軍と海軍の対立が悪影響を及ぼした、などの指摘は新鮮である。また、敗戦直後の時期を取り扱った第六～七章では、石川一郎文書やGHQ文書などにより、旧海軍燃料廠の民需（肥料工場）転換が論じられていく。そこで強調されるのは、戦時中の資本ストックや人材の再活用（第六章）、GHQ—SCAPと地方軍政部とのあいだの意見の齟齬（第七章）、などである。

第三部では、補論として、直接的には関係のない三つのテーマが検討されている。一九二七～二八年の三井物産・ソコ二間の交渉を論じた第七章では三井物産の毅然とした姿勢や同社サンフランシスコ支店の独自の役割が、カーの「持てるもの」と「持たざるもの」の議論を取り上げた第八章では第二次世界大戦回避の可能性を再検討することの必要性が、松岡洋右外相の日独伊ソ四カ国同盟構想の存否を検証した第九章ではそれが存在しなかったことが、国内外の資料を駆使して、明らかにされている。

以上のように、本書の各章は、一次資料を徹底的に渉獵・発掘・活用した成果として、従来の通説を打破するファクトファイディングに満ちている。これが、本書の最大のメリットである。

本書の著者は、序章において、「一流プロ棋士が盤面に強烈な個性を自分で表現するように、私も、己の『主観』で史・資料を

縦横無尽に走らせ、一つの像を提示した  
かった」(五頁)、と述べている。けれども味  
のない大胆な発言であり、これに対しては  
評者も、まったく異論がない。問題は、そ  
れが実行されたか否かである。著者は、た  
しかに、『主観』で史・資料を縦横無尽に  
走らせ」てはいる。しかし、「一つの像を提  
示した」と言えるであろうか。①、②、③  
の三つの課題の論理的関連は把握しにくい  
し、第三部の位置づけも明確でない。一つ  
一つのパーツは優れているが、それらが組  
み立てられ、優れた全体像が描かれたよう  
には思えない。「学術書なのに答はない」  
(三五九頁)という終章における著者の自  
己評価も、潔いものではあるが、開き直り  
の感を否めない。評者としては、石油を基  
軸にした新しい太平洋戦争像の結実をめざ  
す、著者の研究のさらなる深化に注目した  
い。

(き)かわ・たけお 東京大学社会科学研究所  
教授)

(A5判、三七八ページ、五六七〇円、日本経  
済評論社、二〇〇四・一刊)